

令和4年度 第1回小平市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和4年7月28日(木) 午前10時から11時23分

2 場 所 中央公民館 2階 講座室2

3 出席者

(構成員) 小平市長	小林 洋子
教育委員会	
教育長	古川 正之
教育長職務代理者	三町 章
委員	山口 有紀子
委員	丸山 憲子
委員	青木 雅代

(構成員以外の出席者)

有川企画政策部長、白倉教育部長、岡崎教育指導担当部長、安部地域学習担当部長、
奥村政策課長、市川教育総務課長、事務局職員2名

(傍聴者) 1名

4 会議内容

午前10時 開会

(開会宣言)

○小林市長

おはようございます。市長の小林でございます。

定刻になりましたので、ただいまより、令和4年度 第1回小平市総合教育会議を開催いたします。進行につきましては、会議の主催者である私が務めさせていただきます。

教育長及び教育委員の皆様には、日頃より小平市の教育行政の推進にあたりまして、ご尽力をいただき、改めて感謝を申し上げます。

さて、昨年度の総合教育会議を振り返りますと、私が市長となって初めての総合教育会議でありました7月の第1回では、「小平市の教育に関する大綱」について協議・意見交換を行いました。

教育委員の皆様より、様々な観点からのご意見をお聴きし、現在の「小平市の教育に関する大綱」については、引き続き維持することを確認させていただきました。

12月の第2回では、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、懸念される「子どもの健やかな体の育成について」をテーマに意見交換を行い、教育委員会と市長部局との連携の重要性について、再確認をいたしました。

(協議事項)

本日の令和4年度第1回のテーマは、「10年先を見据えた小平市の教育が目指す方向性について」でございます。

現在、教育委員会において策定が進められている(仮称)第二次小平市教育振興基本計画は、

教育基本法第17条第2項に基づく教育振興基本計画に位置付けられるものであり、小平市の教育の振興に関して、今後進める施策の基本的方向や目標を示すものになると聞いております。

また、小平市第四次長期総合計画における「ひとづくり」を実現するための個別計画にも位置付けられるものとなります。

小平市教育振興基本計画のもと、これまで取り組んできた様々な施策をどのように継承し、発展させていくのか、また、社会情勢の変化に伴う新たな課題にどう取り組んでいくのか、10年先を見据えた教育が目指す方向性を考えるうえでは、この2つの視点が不可欠であると考えています。

本日の会議にあたり事務局において作成した、小平市教育振興基本計画に基づく取組の振り返りと、昨年度に実施したアンケート調査結果などから見える現状や課題等を踏まえ、10年先を見据えた小平市の教育が目指す方向性について意見交換ができればと思っております。

それでは、まず始めに事務局から、小平市教育振興基本計画の振り返り等について説明をお願いします。

○白倉部長

それでは、小平市教育振興基本計画の振り返り等について説明いたします。

現行の小平市教育振興基本計画は、本年度で計画期間が終了することから、昨年度、(仮称)第二次小平市教育振興基本計画の策定方針を策定し、新たな計画の策定に向けた学識者等による検討委員会及び庁内検討委員会を設置し、現行計画の取組状況や課題の整理、及び教育に関するアンケート調査等を踏まえ、検討を進めております。

この間の検討を踏まえ(仮称)第二次小平市教育振興基本計画の策定に関し、この度、計画の骨子を作成いたしましたので、併せて説明いたします。

資料1をご覧ください。

「小平市教育振興基本計画の振り返り」についてでございますが、本資料は、現行計画に基づく、15の基本的施策の取組の振り返りを行うため、昨年度実施した小平市の教育に関するアンケート調査による現状把握、及び各課におけるこれまでの取組の振り返りを行い、次期計画に向けた課題を整理したものでございます。

教育分野においては、長期的な取組が求められる施策が多く、これまでの取組による成果もあるものの、今後も引き続き取り組むべきとされる課題も多く、また、社会状況の変化に応じた取組の必要性や課題なども生じております。

こうしたことを踏まえ、新たな計画の策定にあたりましては、現行計画の取組やその成果を踏まえ、さらに発展させていくものと考え、骨子をまとめたところでございます。

次に、資料2の「(仮称)第二次小平市教育振興基本計画骨子」をご覧ください。こちらが新たな計画の骨子となります。

本年度、新たに策定する(仮称)第二次小平市教育振興基本計画は、教育基本法第17条第2項に基づく、地域の実情に応じた、教育の振興に関する基本的な計画であるとともに、小平市第四次長期総合計画における「ひとづくり」を実現するための個別計画に位置付けられるものでございます。

新たな計画の体系ですが、現行計画と同様、最上段に小平市の教育が目指す人間像を掲げ、続いて計画の基本理念、具体的な教育の目標を掲げ、その実現に向けた具体的な方策を基本的施策にまとめることとしております。

初めに、小平市の教育が目指す人間像についてですが、現行計画において、「自立」「貢献」「共

生」を「生きる力」と捉え、「社会的に自立し、地域・社会に貢献しながら、他者と共生する人」としております。これは普遍的なものであり、また、小平市第四次長期総合計画において市が目指すまちの将来像である「つながり、共に創るまち こだいら」を実現する人であると考え、新たな計画においても、引き続きこの人間像の実現を目指すこととしました。

次に、この目指す人間像の実現に向け、今後10年で取り組む小平市の教育の基本理念ですが、昨今の社会状況や小平市教育振興基本計画検討委員会で委員の皆様からいただいた意見等を踏まえて検討しました。教育に対するニーズの多様化、個別最適な学びと協働的な学びの両立、ICTの活用をはじめとした新たな時代の教育への対応、地域の教育力の活用といった意見が多く、これから「学び・体験を通じて お互いに認め合い 励まし合い 共に生きるまち小平」を基本理念として掲げることとしました。

この基本理念に基づく教育の目標は3つ掲げており、1 自分を認め 他者を認め 一人ひとりの子どもの良さや可能性を最大限に引き出します、2 学校・家庭・地域がつながり 持続可能な教育環境をつくり、3 一生涯にわたって学び受け継がれる小平の教育の好循環をつくり。

これはそれぞれ、目指す人間像の「自立」「共生」「貢献」につながります。

この教育の目標を達成するための方策として、資料1でお示しいたしました現行計画の検討等を踏まえ、12の基本的施策をまとめております。なお、こちらについては、先般開催いたしました第二次小平市教育振興基本計画検討委員会で委員の意見を踏まえ、一部、表現の再検討を行っております。

以上が、次期計画の骨子となります。説明は以上です。

○小林市長

それでは、皆様から、ご意見を伺いたいと思います。まず、三町教育長職務代理者より、お願いします。

○三町教育長職務代理者

事務局からの説明にありましたように、これまでの計画を振り返って進めていくという新しい計画の構築については、着実に進めていただいていると感じています。

私も今回の基本理念に大変共感しております。自分のライフワークとして、国のこれまでの教育振興に関わることや、現状などを学んできたつもりです。

その中から大きく2つ触れたいと思います。1つ目はGIGAスクール構想の実現で、2つ目は地域ネットワークの再構築です。この2点が基本理念につながってくると思います。

1つ目のGIGAスクール構想ですが、10年前の第二期の国の教育振興基本計画では、いわゆる情報社会の次の時代というのには触れていませんでしたが、ICT関係の基本政策としては協働型、双方向型の学習が提案されていました。しかし、財政的には地方財政措置、つまり地方交付税によるものだったことから、先進自治体や、私が勤めていたところでは、教室で一人一台使える環境が整っていましたが、普通の自治体ではそうはいきませんでした。それが、5年後の第三期の国の教育振興基本計画ではSociety5.0という次の時代を見据えて、ICT環境については3人に1台という形での推進が図られています。これも地方財政措置で進んでおり、小平市では残念ながらパソコン室のパソコンをノートパソコンにして教室で使おうといったレベルだったと思います。

それが令和元年12月ぐらいに、国の補正予算で急にGIGAスクール構想が出され、3人に1台のパソコンの環境整備を進めている、また、今後進める予定の自治体に対して、1人1台の

パソコンと高速ネットワーク環境を整備する予算を補助するとして、多くの自治体に手を挙げるよう提案するものでした。

東京都はこれに手を挙げて、順次進めていくところでしたが、急遽コロナの問題で令和2年度に予算化し、小平市でも令和3年度に急速に整備を進めたという流れだと思います。

パソコンが動かないなどの問題は、10年前に整備されていた自治体では、今は何の問題もなくできているのだと思いますが、小平市は、まだそのようなレベルで整備を進めているということ認識すべきだと思います。

小平市はこれから、次期計画に向けた課題でいう、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実を一步一步着実に進めていくことが必要だと思います。

したがって、学校あるいは教員のICT活用やICTを活用した指導が日常化されていくことが10年後の目標だと思います。それを進めていくために、教育委員会、あるいは市長部局の支援が絶対条件になってくると思います。サポート人材の問題や、教師用のデジタル教科書の問題、今検討されている再来年度からの児童・生徒用のデジタル教科書の扱いなど、教育委員会のサポートやネットワーク環境の維持・向上などの支援も大きいのではないかと考えています。

子ども一人ひとりが確かな知識を基盤として、自分で考えて判断し、行動できる。そのようなことを考えるのにICTは非常に有効なツールであると思っています。したがってICT環境はどの自治体であっても今後学校教育を進めるうえでの基盤であると思っています。それを見据えた上で、確実なスケジュールをたて、方向性を定めてやっていただきたいというのが1点目です。

2点目の地域ネットワークですが、10年前の国の教育振興基本計画では、互助・共助の活力の形成をあげて、全学区で学校と地域の連携・協働体制を構築する、全公立小学校の1割にコミュニティ・スクールを作るという目標を掲げていた。

小平市はその頃は1割あるかないかだったと思いますが、次の第三期の前の年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律や社会教育法が改正されて、全校にコミュニティ・スクールを設置するか、地域学校協働活動を進めるための整備を図ることが教育委員会の努力義務とされました。

1割という目標が、5年後の教育振興基本計画では基本的には全校、そして地域学校協働活動も全校を目指すという目標に変わりました。それが今年で4年目になります。小平市の場合、コミュニティ・スクールはじわじわと進めていますが、まだ目標には届いていない。地域学校協働活動については、内容としてはコミュニティ・スクールで行っていることとつながるところもあると思いますが、この活動として求められている、双方向のものでもありませんし、活動するシーンの位置づけなどが不明確だと思います。そのようなことをベースにしながら、今回のアンケート結果を見せていただきました。

その中で、学校や家庭、保護者からは、地域の人材を活用したいという声はかなり多かったです。一方で、地域の方は、連携については情報を共有するという感じで、まだ差があると思います。そこでの協力関係をまた構築していかなければならないと感じています。さらに東部地区では新しい住民が増える中で、小平市に興味を持ち、また小平市を愛し、そこで共に生きていくという姿勢を作るための仕掛けづくりが必要だと思います。それが、全校のコミュニティ・スクール化と地域学校協働活動の両輪になっていくのではないかと思います。

さらには、今後、公共施設の複合化などでうまくミックスされれば地域の人たちの交流や、家庭支援も可能になる。子どもが活動するフィールドがその施設になったり、あるいは学んだ大人が自分の成果を還元したり、実践したりする場になり、子どもが非常に身近になるのではないかと思います。

これから10年の間には、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動に確実に移行させて、

さらに充実させていく。公共施設の複合化は10年後どうなるかわかりませんが、先進的に行いながら、学校を核としたネットワークの構築を進めていくことで、冒頭にありました互助・共助による活力あるコミュニティになるのではないかと期待しています。

○小林市長

GIGAスクール構想については、急遽国の補正予算で整備が進み、先生方もどのように使っているのかわからない感じでスタートしたものと捉えています。一方で、子どもたちの方が扱いに慣れていて、どんどん先に行ってしまうということもあるようです。

学校としても子どもに追いつきながら、どんどん使い方を習得し、模索していると思います。機器を使うことが目的ではなく、その先にある、子どもたちがどう育っていくか、機器を使ってどう学んでいくか、というところの共通意識をもってどう進めていくのかが課題と捉えているところです。

次に地域ネットワークの再構築については、学校を核とした地域づくりというところは、今後小平市としても作っていきたいと考えているものの1つです。十一小の建て替えの中で、地区交流センターを設けて、どうやって地域の人と交流していくか、学校と地域、親、先生も含めてどう交流していくのかということと一緒に考えていかなければならないと思っています。学校に地区交流センターを設けた中で、どうしていったらいいかなどご意見ありますか。

○三町教育長職務代理者

総合的な学習の時間に学んで福祉施設に行くこともあると思いますが、その対象施設が地区交流センターになるなど、地区交流センターに地域の施設が一緒に入ることによって、子どもにとっての学習フィールドになると思います。

また、公民館の活動や、学習活動の成果を還元する対象が子どもであれば、放課後の子どもたちの支援につながり、身近でできるということになると地域との関係が変わるのではないかと思います。

新しい人には小平市を郷土として愛するような気持ちを育てて欲しいと思っており、人との関係や、自然、地域の文化でつながる。公民館やそのような場で学んでもらい、それを還元するという循環が10年間の中で少しずつ進んでいけば良いと思っています。

○小林市長

それでは続きまして山口委員をお願いします。

○山口委員

現行の小平市教育振興基本計画については着実に進めていただいている、引き続き第二次小平市教育振興基本計画についても策定に向けてしっかり吟味していただいていると思っております。

さて、今回のテーマ「10年先を見据えた小平市の教育が目指す方向性」ですが、1つ1つの施策や目標については、事務局でしっかりと検討していただいているものと思っておりますので、私はその背景にあるものについて俯瞰しながら思いをはせてみました。

現行の小平市教育振興基本計画において、小平市の教育が目指す人間像について自立、貢献、共生という3つのキーワードが出ています。10年先を見据えた時、3つのキーワードのうち「共生」の部分に私は重要性や可能性を感じているところです。

市内で子育てしている中で、「保護者と保護者」「保護者と学校」「保護者と地域」が近年非常に

つながりにくくなっていると実感しています。例えば、最近では、個人情報保護の観点から、クラスの連絡網がありません。親同士が直接連絡先を交換したご家庭以外とは連絡を取り合うことができません。重大な事故があれば学校に仲介してもらいますが、日々のちょっとしたお礼や謝罪、相談、確認などで保護者同士が気軽に連絡を取り合えない環境は、私自身も不便やさみしさを感じる事が非常に多いです。

本来であれば保護者同士が連絡を取り合えば解決できる案件も、お互いに連絡がとれない状況から問題が複雑化して、学校が把握する頃にはすでに大事になっている例をよく目撃します。先生方からすると、学校に相談がもたらされた時には、すでに問題が深く、複雑に絡み合っており、真相究明や双方の家庭の仲介役として学校が割かなければならない時間とエネルギーが膨大なものとなっていると思います。

学習指導以外の雑事に追われる先生の大変さは多くの子どもたちや保護者も理解していると思います。ところがその理解も、逆に忙しい先生に些細なことを相談するのは申し訳ない、多少の違和感はあるけれど、先生を介して相手にコンタクトを取るほどではないなど、相談そのものをためらう要因になっている気がします。このように「保護者と保護者」「保護者と学校」との関係も非常に細く、脆弱なものとなっています。このような状況の中で、ましてや保護者が地域の方と密接な関係を深めるのは非常に難しいと思います。

我が家は数年前に小平市に転居してきました。近所の方とは挨拶や世間話はしますが、お互いの家庭の深い部分に踏み込むことや、親戚関係や交友関係の詳細に触れる会話はほとんどありません。職場が遠方で、1日の大半を小平市外で過ごすご家庭は、なおのことご近所との関わりが希薄だと思います。近い距離に住み、子ども同士が同じ学校に通っているにも関わらず、親同士に全く会話や面識がないというのは、むしろ珍しいケースではないと思います。

こういった大人たちが、今、小平市の教育が目指す人間像「社会的に自立し、地域・社会に貢献しながら他者と共生する人」の姿を体現しているのか、ということです。自分や他者を認め、地域社会に貢献する自立した心を持っているでしょうか。学校教育、家庭教育、地域、子どもたちに十分な関心を持っているでしょうか。学びやスポーツを実践し、地域内での知識やつながりの循環に身を置いているでしょうか。

子どもは親のいうことを聞いて動くのではなく、やっていることを真似て動くというのは子育ての中で実感しているところです。例えば、大人がどんなに挨拶をしなさいと教えても、周りの大人が積極的に挨拶を交わしていなければ子どもたちは戸惑います。それでも大人が挨拶をしなさいと言いつつ子どもたちは機械的には挨拶をするようになります。この時の子どもは、挨拶の意味や効果を自分で考えることをあきらめ、同時に大人への信頼も手放してしまっている状態です。

私たち大人が体現できていないことを子どもたちに実践させようとするのは、つまりそういうことだと思います。小平市が目指す人間像である「自立・共生・貢献」というキーワードがあり、その中で私が共生に注目しているのは、大人の共生、大人同士のつながりなしに子どもたちの自立や貢献の心は育たないと思うからです。

大人が学校や地域の人たちと深い信頼関係を築き、共に子どもたちを育てていく意識や力を育てていってこそ、小平市教育振興基本計画の実行性や質が高まると思っています。例えば、子どもの自己肯定感やICTリテラシーの向上には目の前の人との直接的な対話の力がベースになってきます。部活動の地域移行や、不登校対策につながる多様な学びの場の提供には、保護者の理解と協力が不可欠です。教員の働き方改革や、コンプライアンス意識の向上には、学校外の人との関わりが大きな役割を果たします。教育振興基本計画の実行性と質を高めるには、まず大人が

手の届く身近な人と、生身の人間同士のつながる力、環境を育てていくことが重要になっていくと思います。

私は、子どもが小学校に入学したタイミングが大人の地域デビューのチャンスだと思っています。役員、委員会活動や学校ボランティアを通して大人が他者とつながり、学校と連携して子どもや地域、教育について思いを巡らせる。人とつながるのが当たり前、学校とは協力するのが当たり前、自分たちはこの地域の住民である、という意識や体験を早い段階で手に入れた方が、その後PTA役員や学校経営協議会、放課後子ども教室、青少年対策地区委員会など地域の中核を担う人材へと成長していくものです。

これらの組織の後継者不足、人材不足は保護者同士のつながりの希薄化が大きな原因の1つであると思います。近年の社会情勢に加え、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、学校側も保護者や地域の方を校内に立ち入らせることに非常にナーバスになっていると思います。地域に開かれた学校を実現するために、施設開放や避難所の運営、学校公開や学校ボランティアの推進など手段はたくさんありますが、その責任や決断を学校管理職だけに負わせるのは大変酷だと思っています。

学校を開き、地域をつながりを作り、共生の場を作るために、施設面などのハード整備は市長部局ですが、学校管理職や施設管理者が安心して場を開いていけるようなルールやシステム、サポート体制の構築は、教育委員会事務局が担うべきところです。人と繋がるのが当たり前、学校と協力するのが当たり前、自分たちはこの地域の住民である、自立も貢献も共生があつてこそです。子どもの小学校入学のタイミングに合わせて、大人の地域デビューを支援する体制を整えば学校教育、社会教育を支える大きな力となるはずです。若いうちに隣近所とつながる感覚を身に付けた方は、子どもが学校を卒業した後も抵抗なく自然と地域に関わり続けるのではないのでしょうか。また、そういった大人の姿を見ていれば子どもは自然とそれを真似て当たり前のよう実践するようになります。これから策定される第二次小平市教育振興基本計画が体温を持った質の高い教育の礎となるように、それを下支えする大人の共生、つながり作りに今後も着目、期待していきたいと思っています。

○小林市長

当たり前に地域とつながっていこうということができると良いと思います。個人情報保護のほかに、コロナなどの阻害要因が多くあり、また、小学校入学を機会に地域に関わってもらうことが当たり前になればよいが、PTAの役員決めに非常にナーバスになるなど、マイナスとして捉えてしまう方が多く、コロナをきっかけにもう少しやりやすい方法を模索していく機会になればと思っています。

平日の昼間にしか集まらない、ということではなく、オンライン化など方法を変えていく中で、つながっていける方法はあるのだろうと、そういう方法を模索していく必要があると思っています。

PTAについては、小学校PTA連合会や中学校PTA連合会から抜けてしまう学校が出てきている点は懸念材料だと思います。PTAの役員になることを懸念されている保護者の方に、もう一歩進んで入ってきてもらうことについてお考えなどありますか。

○山口委員

単年度交代の役員だけで物事を決めようとする、皆様お忙しいですから、じっくり議論をすることや、理解することを抜きに、効率化、脱退という方向に流れてしまうのだと思います。や

はりここもつながり作りではないでしょうか。まず、歴代のPTAの役員の方々とつながる、そこで信頼関係を築くというベースがないと、ルールなのでやってくださいだけでは引き受けていただけないと思います。そこに信頼関係があつてこそ、いろいろな自主的な活動が生まれてくるので、まずは信頼関係やつながりが育つシステム作りが大事ではないかと思っています。

○小林市長

PTAは単年度なので、1年で何かを変えるというのは大変なことです。歴代のPTAの方に聞いて進めていって欲しいと思っています。一方で、役員決めが重くなってしまい、なかなかその先に議論が進まないというのが1つ課題と思います。

小学校に地区交流センターを設けることでPTAのあり方も変わっていくと思いますし、地域ともっと気軽に接していく中で、つながりというものが生まれていくと良いと思います。今後その仕掛けづくりを一緒に考えていきたいと思っています。

続きまして丸山委員お願いいたします。

○丸山委員

大人が姿を見せるという意味では、以前PTA会長を務めた時に、最初の総会で言った言葉があります。子どもたちが何か新しいことにチャレンジする時に、大変だからやらなくていい、ではなく、1回やってみようとお前は言います。大変だからやらなくていいという保護者もいるかもしれませんが、少しやってみるなど、子どもにまずはチャレンジさせることが重要だと思っています。それは保護者がPTAをやってみるということと同じで、大変だからやらなくていいという姿を見せると、子どもも大変なことはやらなくていいと捉えてしまい、子どもも大変なものを避けて通ることを選んでしまう、という話をしたことを思い出しました。

今回の10年先を見据えた小平市の教育の方向性を考える時に、コロナやサル痘などの感染症、戦争、異常気象、エネルギーの枯渇など、これから先、自分たちや子どもたちが直面する問題は大きいと感じています。子どもたちに明るい未来や、豊かな未来を想像してもらいたいのに、大人自身に閉塞感があることなどから、明るい未来、豊かな未来を考えることが難しくなっていると思っています。

これは地球規模で考えることですので、小平市でどうにかできる問題ではないと思いますが、教育面から考えた時、市政レベルでもそのようなことを含めて考えていくべきだと思っています。

文部科学省では、主体的、対話的で深い学びの実現を目指して、学習指導要領が定められています。勉強することや知識を詰め込むだけではなく、情報社会や国際社会など、これからの社会において、どのような人を育てるのが肝要であり、そのためにもやはり知識を習得するだけではなく、プラスアルファで重要なことがあると思います。

文部科学省でも思考力や判断力、表現力の育成を掲げていますが、知識の習得だけではなく、体験や人とのコミュニケーションなどが必須ではないかと思っています。知識を得るということは、概念を言葉にして頭に入れることだと思いますが、概念が頭に入っただけでは人の身に付くわけではありません。

学芸員養成課程で博物館学を教えている者として、本物を見る、本物に触れる、実物を見るなど、空気を共有することに重きを置いており、知識を得ることと体験の両輪が学びにおいては必要であると感じています。

学習指導要領や（仮称）第二次小平市教育振興基本計画の骨子においても、体験を通じてと書いていますが、経験値や体験が、その人の学びや、人としての成長に大きな意味があると思いま

す。

SNSでおいしいお店の紹介を見た時、いろいろなものを食べたことのある大人は、あれは大体こういう味がするだろうと想像はできますが、やはり自分で実際に食べてみないと本当の味は分かりません。

この度武蔵野うどんが、江戸時代から続く伝統的な料理として文化庁の100年フード宣言に認定されました。この武蔵野うどんを例にとると、武蔵野台地で作られた農林61号を主とする小麦粉、いわゆる地粉を使って、手打ちで作られたうどん、冷たいうどんを昆布とカツオを中心とした温かい出汁に、醤油とみりんを入れた少し甘辛い付け汁に、油揚げや、キノコ類を入れ、さらにほうれん草や小松菜、大根、ネギなどのいわゆる糧と一緒に食べる、というのが武蔵野うどんだと言われています。

これはあくまでも知識であり、付け汁がこんなに甘辛い、麺がけっこう硬い、冷たくてのど越しが良いなど、実際に食べてみないと分からないこともあります。もちろん食べるだけではなく、様々な経験をするのが子どもたちにも、そして大人にも大切なことです。

人とのつながりも体験の延長線上にあると思います。人とのつながりもコミュニケーションを取るという意味で大事だと思います。コロナ禍においては、コミュニケーションを取りづらいついて言われていますが、健全な発達をする上では、人とのコミュニケーションが重要というのは実証的に分かっていることです。

例えば笑顔など、表情で接するというのも人としては重要なことです。異年齢交流として、先生と子ども、保護者と子どもだけではなく、核家族が増えているため、お年寄りと交流することはあまりないと思います。それを意識的に学校で作るとというのがコミュニティ・スクールだと思います。いろいろな人が学校に協力して、学校の中に入り、地域に開かれた学校を作るとは、子どもだけではなく、そこに参加する人の交流の意味でも必要なことだと思います。儒教的な考え方もかもしれませんが、お年寄りから先人の叡智を学ぶことも大切なことですし、昔のことをその人に聞く、生きた証言を聞くことも必要であると思います。

また、郷土の歴史についても、(仮称)第二次小平市教育振興基本計画の中で重要視されていくべきことですし、郷土の学びは、郷土愛や異年齢交流に関係してくると思います。

最後に、鈴木遺跡の話になりますが、国指定史跡というのは相当重要な遺跡です。旧石器時代の遺跡のため地味といえば地味で、目立つ縄文土器のような華やかさはないのが実際のところですが、しかし、人類史上で非常に重要な遺跡だと思います。700万年前にアフリカで人類の祖先が誕生し、その人たちがアフリカからユーラシア大陸を通過して4万年前に日本にきています。鈴木遺跡は3万8,000年から1万6,000年の間のいくつかの文化層に存続した遺跡であって、そこで人は石器を作っていました。道具を作るということは人類史上重要なことです。また、様々な人種問題がありますが、700万年前にアフリカで誕生した人類の祖先が世界中に散らばったのであり、もとは一緒であるということは、人権などの問題にも深く関わってくると思います。

遺跡があるということは、歴史の勉強だけではなく子どもたちにいろいろな学びを提供してくれるものだと思います。それは武蔵野うどんを深く学ぶこともそうです。水のないところであったからこそ小麦を作っていた。こういう環境があったからこそうどんができたという相関関係があった上での、様々な事象の側面だと思います。

郷土の学習は子どもたちに重要な教材を提供してくれていると思います。子どもたちだけではなく、新しい人たちや小平市に住む市民でも知らなかった人もたくさんいると思いますので、そのような人たちに知ってもらふことは重要なことだと思いますし、旧石器時代の環境問題などを

考えてみると、人種差別や、子どもたちも学んでいるSDGsなどにも繋がっていくのではないかと思います。

P T Aについても、つつい効率化や生産性を中心に考えてしまいがちです。様々な問題を精査して、手間がかかるところはICTを活用するなど、違う手段を使うことも大事ですが、手間がかからないところにあえて手間をかけるスタンスを忘れてはならないと感じています。

○小林市長

体験と知識の両輪というところは非常に共感するところだと思います。子どもたちには様々な体験をして欲しいし、実際にやって欲しいと思っています。そのような体験を通して、子どもたちが自分の引き出しを増やせるのだと思います。どれだけ多くのことを体験できたか、体感できたかによって、自分のその後の人生が豊かになるという捉え方だと思います。

鈴木遺跡については、古くから小平市にいた人は知っていただいていると思いますが、新しく来た人にPRしていきたいと思っています。以前、市役所に鈴木遺跡の何かを置いたらどうかとお話しされていたと思いますが、具体的なイメージなどはお持ちでしょうか。

○丸山委員

まずは知ってもらうこと、見るのが重要だと思いますので、本物なら尚更ですがレプリカでも構わないと思いますので、礫や石器などを市役所などの人が集まる場所で見せることができたら良いと思います。関東ローム層の深さなど、鈴木遺跡に行かないと分からないものなので、それらを含めて見ることで見ることができたら良いと思います。市民課の窓口のカウンターの下に置くなど、見てもらうことが大切だと思います。

○小林市長

続きまして青木委員お願いいたします。

○青木委員

10年先と思った時にかなり先のことと思いましたが、すでにこのコロナの状況で過ごした日々が3年ぐらいになります。こうして過ごしていると10年というのはあっという間であると思います。これまでの10年間の取組について、今後への反省点や課題点を見つけていただいています。常に状況を見極めながら進めていけるといいと思います。

また、10年という期間は、生まれてから10才になる子どもと、還暦を迎えてから70才になる人では、その間に必要なことは全く違うと思います。そのような中で、より広い視野での方向性を考えていけたらと思います。

小平市の教育が目指す方向性として、(仮称)第二次小平市教育振興基本計画の骨子に共感していますが、これを実現させるための方法を、小平市というまちや世の中の状況に合わせて検討できたら良いと思っています。小平市のことをより深く知り、自分のまちを共によりよくしていこうという姿勢や気持ちを育むような教育を今後積極的に取り入れていけると良いと思います。

小平市の第四次長期総合計画に「つながり、共に創るまち こだいら」というめざす将来像があるように、「つながり」ということに関して教育でも積極的に進めていくことを願っています。

まず自分の住んでいるまちの歴史を知り、その文化や自然に誇りを持つと良いと思います。過去からのつながりというのは、自分という存在の周りとのつながりにも通じるものがあると思います。そのつながりがあって今の自分があり、今のまちがある。小平市をよりよくしていこうと

いう人を育て、そういう人を増やしていけると良いと思います。

そのような中で、鈴木遺跡のことをもっと深く学べる機会を小平市全体として持ってあげたいと思っています。玉川兄弟の功績などは小学校でかなり深く学んでいて、学芸会の題目としても扱われていますが、鈴木遺跡となると今回のアンケートの中でも、遺跡自体のことを知らない人や子どもが多く見受けられました。この地に何万年も前の旧石器時代の人の営みがあって、かなり広範囲に交流があったということは、国の史跡に指定される重要な事実として、市民全体が共有していくべきことだと思います。この広範囲の交流というのは、資料館にある黒曜石の分布などでも分かりますが、その産地であった地域との交流を考えていくのも良いと思いました。現在小平町との交流はありますが、そのような地域との交流も自身のまちを知る良い機会になると思っています。

また、小平市には、平櫛田中氏が晩年を過ごしたなど、著名人の功績やその作品に触れることのできる機会がたくさんありますので、子どもの頃からぜひそのようなものを実際に体験させてあげたいと思います。

このような郷土のことは、小・中学校の学習で扱えば一番広く伝わるとは思いますが、新たにこの地に居住する人にも広く伝えていくためには、図書館での展示や書籍の紹介、公民館での講座の実施があげられると思います。そのようなことを積極的に伝える活動をしてあげたいと思います。

歴史の中での繋がりということを考えましたが、人と人とのつながりということもやはり大切であると思います。コロナでこの数年間は人とのつながりを極力避けることが求められ、関係性が一気に希薄になってしまった気がします。最近になって規制が緩和されることで、人との交流の大切さを感じ、活動が戻ってきている状況もありますが、学校関係や保護者の活動などボランティアで成り立ってきたものへの関心は、薄れてしまっているように感じます。

もちろん今までの関わり方が良いというものではないので、コロナを経ての改善を取り入れる必要はあると思いますが、学校にとって保護者や地域の人との関わりは大切であると思いますので、その人たちとのつながりを取り戻し、より多くの人と繋がっていく方法を今後検討していかなくてはならないと思います。現在多くの学校がコミュニティ・スクールとなってきていますが、その中でより多くの方々と繋がりを持てるように考えていくのが一番の方法であると思います。小学校に関しては、今後も地域とのつながりをつくる核となっていくと思いますので、積極的につながりを持てるようにしていくと良いと思います。

幸いどの小学校区にも青少年対策地区委員会があり、コロナの影響で行事は控えていたと思いますが、その行事も少しずつ戻ってきています。地域とのつながりは、そのような場で保たれていると思いますので、その地域とのつながりを大切にしながら、より広く人材の確保ができると良いと思います。

小平市ではタウンミーティングという形で、多くの市民との対話の場が設けられていますが、学校単位でも様々な活動や問題について地域で話し合えるような機会を設け、保護者や地域の方々に興味を持ってもらうことが大切なのではないかと思っています。アンケートで、地域の方との関わり方の質問に対して、「時間がない」や「きっかけがない」という回答が見られました。そのような方々にタイミングよくつながっていただけるように、そうした機会を継続的に持ってあげれば良いと思いました。

また、アンケートの中で、地域の方の希望として学校施設の開放というのも見られました。学校施設の開放などにより、スポーツなどでつながりを持てるというのでも良いと思います。生涯にわたって健康で過ごせることは本当に大切なことであり、スポーツに限らないと思いますが、体

育館などの開放で気軽に身体を動かせる機会が作れると良いと思います。それが保護者の大会や市民のスポーツ大会につながり、新たなつながりになっていくのではないかと思います。

つながりということで話を進めてきましたが、多くの場面でのつながりを維持し、活用していくことがやはりこの先を見通したときに大切なことだと思います。生涯教育として公民館で多くの講座を開催し、関心を持って参加していただいている方も多くいらっしゃいます。その方々に地域の人材として活躍していただけるような仕組みができていくと良いと思います。

10年という年月はそれぞれの人にとって全く違う時間になると思いますが、それぞれの人たちの必要に応じた講座や支援を途切れることなく続けていくことが必要であると思います。これから考えたとき、このつながっていくというのがとても大切なことだと思います。

先日の教育委員会の研修会で、南極から見た地球環境の講演があり、地球規模で予測できない気候変動が起きているという状況を伺いました。この先の生活を考えたとき、一人ひとりの力は小さいですが、何かできることがあるはずだと思います。これからの社会を生き抜くために、必要な正しい情報を得るとともに、それに向けた取組を学べるような機会を子どもたちにも設けられたら良いと思いました。

また、最近の気候変動による思いもよらない災害はいつ起こるか分かりませんので、それに対応できるようにもしていかなければなりません。中学生ぐらいになれば、避難所での活躍が望める人材になると思いますので、実際の災害を想定した訓練なども積極的に学校の活動の中などに取り入れていけると良いと思いました。

来年1月には立川市に体験型英語学習施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS」がオープンすると聞いています。市内の中学校を訪問させていただくと、英語の授業のレベルがかなり高くなっていると感じています。また、放課後学習教室を使って、英検などに合格している子もかなり多くなっていると聞いています。このような施設ができることで、外国語を習得し、視野を広げ、自分のまちや国などの文化を考えられるような人材を育成できたらと思っておりますので、この施設を積極的に活用できると良いと思っております。

小平市には市内にも多くの大学や、独立行政法人の施設、また、近隣にも同じように教育に関わる施設が多くありますので、今後もそれらを積極的にうまく活用していくことができると良いと思いました。教育委員として市内の学校を訪問させていただき、どの学校もその地域の特色や人材を生かした取組を積極的に行っていて、子どもたちの成長にとっても非常に良い環境が整っていると感じています。コロナ禍を経て、より大切なことも見えてきたと思いますので、それを今後の目標に取り入れて各学校で取り組んで欲しいと思います。

特に行事を通じての体験や経験の大切さは誰もが感じていることだと思います。各学校でICTを活用した個別最適化された学びの充実の状況を見させていただいておりますが、それでは得られない交流や体験があると思います。今後はそのような交流や体験をどう実施していけるのかということを考えていかなければならないと感じています。

今後様々な方面での「つながり」を大切に、目指すべき人間像としてある「社会的に自立し、社会に貢献し、他者と共存する人づくり」ができるようになると思います。

○小林市長

青木委員のご意見の中でもキーワードはつながりというところと捉えました。人と人とのつながりだけでなく、歴史とのつながり、過去からつながっているんだということもお示しいただいたと思っております。

防災という観点からつながるのも一つの方法と思っております。災害が起きたときに困るのは

大人も子どももお年寄りも同じですので、そのような大きな困難と一緒に立ち向かいませんかと
いうつながりも一つ考えられると思いました。今後ともつながりを作っていきたいと思います。
続きまして古川教育長お願いいたします。

○古川教育長

小林市長には、教育行政に対する深いご理解とご支援をいただき感謝しております。この度は、
（仮称）第二次小平市教育振興基本計画の策定を視野に入れ「10年先を見据えた小平市の教育
の目指す方向性について」を議題に取り上げていただき大変感謝しています。

小平市の学校は小学校も中学校もどの学校も落ち着いており、学力向上・体力向上が見られま
す。これは、これまでの10年間、現場の校長を中心に教職員が熱心に取り組んでいる成果だ
と思っています。また、地域・保護者の皆様のご理解とご協力によるものと感謝しております。

さて、小平市の教育に関するアンケート調査の結果から、5歳児保護者と小・中学生の保護者
が子どもたちに身に付けて欲しいと望んでいることは基礎的な学力でした。小・中学校の教員が
子どもたちに身に付けさせる必要があるというのは、同じく基礎的な学力でした。市民に対して
の小平市の子どもたちがどのようになって欲しいと思いますか、との質問に一番割合が高かった
のは思いやりがあるでした。また、小平市の学校教育で特に力を入れる必要があると思うこと、
との質問には、いじめ・不登校対策の割合が高かったです。

これらのアンケートの結果から自分の将来を切り拓いていくために必要な力と、人間尊重の心
を育むこと、自立が強く求められていると捉えました。また、小平市の目指す方向性は、学校を
全ての世代が集い、学ぶことができる生涯学習の拠点にすること、共生・貢献だと考えました。

現在求められている社会に開かれた教育課程の実施は、よりよい学校教育を通じて、よりよい
社会を創るという目標を学校と社会が共有し、地域と連携・協働しながら目指すべき学校教育を
実現するものです。地域と学校が協働し、次代を担う子どもたちを育てていく体制作りとして、
全校へのコミュニティ・スクールの設置を推進しています。学校経営協議会で教職員と地域住民
が熟議し、よりよい小平市を創ることを目指しています。また、避難所管理運営マニュアルの作
成を通してつながりを広げているところもあります。

学校を拠点にするという考え方は、一時的には子どもたちを育てるためのものですが、共に子
どもたちを育てるということを通して、全ての人の自己実現を図るものだと思います。これか
ら保護者や地域の皆様のご理解をいただきながら、小平市の子どもたちの学力・体力の向上と、
健全育成に取り組んでいく決意でございます。また、よりよい小平市を目指してまいります。

○小林市長

保護者からすると学力は身に付けて欲しいと思うところで、学校で学んで欲しいという思いが
ベースにあり、基礎的な学力の上に、どのような人になって欲しいのかという思いがそれぞれに
あるのだと思います。親が言った通りにやるのではなくて、親の姿を見て子どもは真似ていくん
だというご意見は本当にその通りで、大人が思いやりのある行動をもって、その姿を子どもた
ちに見せていくことが大事であると思っています。

三町教育長職務代理者から、他の方の意見を聞いて思ったことがあればお願いいたします。

○三町教育長職務代理者

皆様のご意見を伺い、学校と地域と家庭のつながり、歴史とのつながり、地域としての面的な
つながりを大事にしていく必要があるということを感じたところです。そのための方法としてハ

一局面を変えていく、それが行政の姿勢だと思います。そこにハートを入れ込むためには、関わる人たちの意識を醸成するのが大事であると思います。PTAの話にありましたが、もしかすると世代間の負の連鎖もあるのではないかと思います。私の親は私が高校の時にPTA活動に積極的に参加していました。したがって私としてはPTA活動にあまり抵抗は感じませんでした。

一方、どの世代でも保護者が、仕方ないから今のうちに務めておこうという話をしている家庭があると思います。その保護者の姿勢を刷り込まれて、今保護者になっている方もいるのではないかと思います。世代間の負の連鎖をどう切っていくのかというのが大事であると思います。

小平市の人たちが、子どもの親が、つながっていけるのが10年スパンの大きな目標であると思います。

○小林市長

青木委員もPTAを経験されていますが、PTAを介してつながりをもつということについていかがでしょうか。

○青木委員

PTAという形もずいぶん変わろうとしています。今務めている方には分からないこともあると思いますので、経験者が協力していける体制ができると、よりよくなるのではないかと思います。私も助言できる機会があれば、よりよい形にしていく手助けをしたいと思っています。

○小林市長

総じてつながりというところのご意見が多かったと思います。コロナで多くのつながりが切られてしまい、例えば今年も市民まつりが中止になりましたが、1年に1回開催する中でつながっていたものがつなげなくなっています。

他のおまつりにしても開催できないものが多く、今年はそれでもどうにか工夫して開催するところがあるし、規模を縮小して開催するというご案内も頂いているところです。

PTAについても2年間活動をやめてしまい、活動をしないでいいではなく、どうにかしてつながりを大事にして欲しいというところがあります。

古川教育長からご意見などございますでしょうか。

○古川教育長

公民館は学校の外にありますが、今後は学校施設が複合化すれば、そこには地域の方やPTAのOBの方も集まられると思います。そのような拠点があることによって、小平市のつながりがさらによくなるのではないかと感じました。

○小林市長

10年先、もっと先も見据えながら地域の人たちと子どもたちと育ち、つながりながら考えていけると良いと思います。

皆様、ありがとうございました。

(仮称)第二次小平市教育振興基本計画は、小平市の教育振興のための施策に関する基本的な計画であるとともに、教育委員会における既定の各種方針や、小平市の関連計画等との整合を図りながら、策定が進められるものと理解しております。

本日の協議を通して、私が思い描く10年先を見据えた小平市の教育が目指す方向性と、教育委員の皆様が思い描く10年先を見据えた小平市の教育が目指す方向性が、おおよそ一致していることが確認できました。

引き続き、教育委員会と市長部局の連携のもと、本日確認した方向性に沿って、新たな計画の策定や、教育施策の推進が図られるものと捉えております。

また、現在の「小平市の教育に関する大綱」は、「小平市教育振興基本計画」の第3章「教育の目標」を大綱として位置付けておりますことから、(仮称)第二次小平市教育振興基本計画の策定に合わせて、見直しを行い、時期を捉えて皆様にお諮りしたいと考えておりますが、皆様いかがでしょうか。

○教育委員

異議なし

○小林市長

ご賛同ありがとうございます。

それでは引き続き、小平市第四次長期総合計画における「ひとつづくり」の実現に向け、教育委員会と連携し、教育施策の推進を図ってまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(閉会)

○小林市長

それでは本日の議題は以上となります。

次回の会議は、現在のところ12月頃を予定しております。

今後とも教育委員の皆様と方向性を共有し、連携してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日の会議はこれで閉会といたします。